

佐々井啓先生
日本女子大学

家政教育

こんにちは。家政分野ということなのですが、家政で現職派遣の方、非常に人数が少ないということなので、むしろ家政の専門的な方にサポートというよりは他の分野でいらっしやっした時に生活上の支援とか何かイベントを行った時に必要な内容というものが家庭科の教科の中にあるんじゃないかということで今回一応教材作りをしました。

で活動概要は派遣隊員報告の調査を行いまして隊員報告書の中から一般隊員の家政に関わるものとか、あるいは小学校の中で家政に関わる分野を抜き出しまして調査いたしました。それから帰国隊員によるフォーラムの開催、で具体的な現地情報を見ました。それから今回皆さんにお配りしております携帯ハンドブックということで非常に薄いものなんですけれども生活の一番基本的なものを取り上げてみました。それから家庭科に関わる教材開発と現地サモアの視察を行いました。

でハンドブックなんですけれども、生活の基礎となる家政分野ということで、家政分野の隊員のみでなく、生活に関わる指導を必要とする全ての隊員に共通する内容を盛り込む、身近な生活を通して科学的な目を養う、簡単な技術の指導などに役立てていただきたいということを目的としています。で目次といたしましては、家族と家庭生活、食生活、衣生活、衛生、環境というものが入っております、例えば家族と家庭生活の中には一日の生活時間というものを取り上げてまして生活時間という考え方、これはどの分野にも家庭科という時間が必ずしもあるとはかぎりませんが、どこにも入り込んで自分の生活、家族の生活を振り返るといふそういう要素が必要ではないかということで、あるいは他の教科の他の部分に取り入れるとか、そういうふうな生活指導の一環としての生活時間調査というのは非常に役立つのではないかとこのように考えて取り上げております。それから食生活では各国によって全く異なる食材・食事内容ということが分かっておりますけれども、人間が必要とする栄養と食品という立場から一番基本的な要素を取り上げております。で現地の食材との関係でどのように考えていったらいいのかということをご指導していただけたらと思っております。それから簡単な調理の方法について知ることによって課外の実習とか、あるいは特に女性の隊員ですと地域のために開かれた何かをしなくてはならないということがずいぶんありましたのでそういうときに現地の食材を使った新しい料理を考えるとかなんなような使い方もできるのではないかと考えております。とはいいまして非常に問題のある食生活をしている地域がたくさんありますので、ある意味ではもう少し基本的な健康的なところの視点をその講座のときに盛り込んでいただきたいというふうに思うわけですね。

で衣生活について、衣服の働きとか着方、これは伝統的な衣服とそれから今の状態というものは非常に異なっておりますけれどもその地域の特性を活かしながら、何か衣服って

どういう意味があるんだろう、例えばオリンピックの時には民族服を着て行進をするということがありますから、じゃあ民族服って何だろう、民族って何だろってそういうアイデンティティをとらえる教育というものも必要だろうと思いますし、あるいは気候と衣服との関係、さらに材料もあるんですけども、一般的には簡単に手縫いでできる用具の作り方を入れまして少ない材料で何か自分たちが役に立つものを作ってもらおうというふうなことを考えています。5:17 購入できない材料をどうやって工夫して作るか、紐が無ければ紐を作るとか、まあそういったことも入れてあります。今回衛生の部分、これ保健衛生の分野ですけども、調理・食事というものを考えた時に衛生的な面というのは病気の感染ということも大いに関係がありますので必ず手洗いということを行っているわけですね。それから調理器具の衛生的なもの。だから家庭科の中でも当然食品・食事との関係でこの衛生を取り上げ、食物の消化吸収、あるいは排泄ということを取り上げております。で、環境も家庭科の中では生活環境ということで入っておりますので、まず住まいの手入れ、家から出るゴミ、身の回りのゴミの行方ということで、むしろ次の専門的な環境の教育に結びつける一番手前のあたりがまさに家政分野ではないかと考えて取り上げております。特に以前に派遣された隊員の方から生ゴミを活用して皇帝で野菜を作ってそれを給食のように使っているというふうな紹介がありましたので、広くいろんな意味でゴミっていうものも生産性があるものだと考えております。昨年までのプロジェクトの中で作りました家庭科ハンドブックというものがあって、日本語版・英語版それから冊子ですねこれと、CDがありますのでもしご希望の方がありましたらこれを差し上げたいと思います。こちらの方はより詳しく載っておりますので、専門的なことをちょっと知ってからお話ししたいという時には役に立つかと思えます。で教材作成に関してはパネルシアターの手法を応用いたしまして食教育が多分途上国でも一番の問題、食べるものが無いということもありますが、どのように工夫するのか、あるいは偏った食生活をどう是正するのかというときのヒントの中に、例えば実際に摂った食事を分析し、それを何か絵に描いてそれを貼って裏側にですね主な栄養素の色分けをすとか、あるいは簡単な現地の料理の紹介、それがどういう成分からできているか、食教育に結びつける方法としてパネルシアターというものを応用した教材を考えました。もう一つはエプロンシアター、これは指人形というんですか何かそういう児童の方でやるものなんだそうですけど、私たちはエプロンに布を貼ってそして体の仕組み、消化・吸収ということで食道から胃やそういう部分を貼らせて腸は紐を実際の長さに取り付けまして人間の体ってこういうものだってものを分かってもらおう。それともう一つはこれは多分高等学校レベルのものになると思うんですけども、胎児の成長という子どもの誕生という時に、あるいは母親学級などで使えるかなと思まして、月齢ごとに胎児が成長していく大きさを作りそれを実感してもらおうというふうなことを考えました。以上が教材作成なんですけれどもここからは実際に現地からの報告で打ちの先生にお願いしましょう。

失礼いたします。サモアの方に現地調査に参りましたのでその報告をいたしまして、皆

さんたちのお役に立てればいいかなと思っております。実はわずか 3 日間という大変厳しい状況でございまして十分調査できたといえないかもしれませんがこれからサモアに行かれる方もいるかもしれませんし、いろんなところに役立つのかなとということを考えております。サモアというのは南太平洋に浮かぶ島でちょうど日付変更線の地図で見ますと右側にあたる所ですね。日本と時差が 20 時間というようなところでして、この大きな島ポ波尔島とサハリー島という 2 つの島からできておりまして、首都が下の方の島ですね。10:11 アピアというところにございます。ここにいくまでは大変乗り継ぎをしまして 30 時間ぐらいかかりました。大変遠い国ですが帰りはまあちょっと早く帰って来れましたがそこでアピアというところに宿泊しまして、ムリファームアというところが空港がございましてその近くに一つポール 6 世カレッジという、公立ではなくいわゆる日本で言う宗教学法の学校を一つ訪問いたしました。それからフェリーで 1 時間ほど行きますとサファリー島というところこちらは人口がポ波尔島の半分くらい、両方あわせて 17 万人という島なんですけれどそのフェリーが着いてからさらに 2 時間ほど車で走りました。イツアサウカレッジというこの 2 つの公立の中等学校ですね、訪問いたしました。そこでサモアにおける家庭科、一応家庭科の隊員がいるというところでサモアを選んだわけですが、3 名派遣されておりまして、中学校いわゆるカレッジというのは大学の 1 年まで入るところですね、高等学校プラス 1 年というようなところですか、そのカレッジに派遣されている隊員がお 2 人、もう一人は普通の中等学校でこの方はすでにもう帰られてきていると思いますがそういうところでした。で初等教育、これは学校教育ですけれども 8 年生まで、それから中等が 9 から 13 年生という学校の教育体制となっておりまして、家庭科は実は選択科目なんです。それで特に職業教育に結びつくというようなことで家庭科が導入されたのが 2000 年というような、ちょうど日本では家庭科は技術ポツ家庭科というようなことで中学校では行われていまして技術の隊員もたまたま一つの中学校のほうにいらっしやってその方からもお話をうかがうことができました。3 目目のところにあります教科書はあるんですけれども、これは共同で何年も使うということで各部屋に設置されておりましてそれを使って、ですから貫禄のあるような教科書でございます。それから授業は 50 分でこれは移動も含めた日本でいう 5 分間の移動とかそういうことはございませぬ。時間数も決まっていないというのが現状です。で実際の事業は黒板を使うのが主、後は先生のお話と、後は先生が一所懸命に模造紙に書いたものを使ってやるということです。それ以外はほとんど教材がないというのが現状です。もちろん視聴覚的な教材はありませんし、その設備も無いということです。日本ではワークシートというものを大変よく使いますけれども、そういうこともまれにはあるようなんですけれどもほとんどないというのが現状です。これは 11 年生の教科書です。これは家庭科の教科書なんです **Foods & Diet Technology?** ということで食物・食生活それと着るというようなことも含めた家庭生活の教科書、11 年生用のがありました。これはニュージーランドが近くでしてそのニュージーランドの教科書を参考にサモアで作られたということでここがサモアの模様のようなので、それから教科書の中

身ですね、これは白黒でしてこういう絵が時々入っている、後はほとんど文字でした。これはイツアサウカレッジというところでサハリー島の一番北のほうにあるところで大変広々とした敷地を持っていて運動はニュージーランドの影響でしょうかラグビーのボールが立ってしまっていて休み時間などは子どもたち・生徒が制服から着替えてラグビーをするというようなところですね。家庭科室を少し見せていただき、ここでの授業を見ましたけれどもこれは JICA のほうからの援助でできたというようなお部屋でしてここのガスレンジ、プロパンガスがありますが、一般の家庭ではまだプロパンガスを使って調理ということはあまり多くないようでありむしろ石油コンロみたいなものを家庭でも学校でも使っています。それから左側の写真は電動ミシンが日本から支給されていること、わずか 2 台か 3 台ぐらいでしてそれを使ってやっております。そしてこれは家庭科室ですけども日本と大きく違っていて真ん中にぽつんと作業台があるだけであとはまわり床で椅子もあるわけではなく机の周りに長いすが置いてありますが、ほとんど先ほどミシンかけているのも立ってやっている状態です。奥に黒く見えますのが古いミシンのような感じですね、こういうのがありました。それで授業は見せていただいたのがここのサモアの民族衣装クレタシというのがあって上のブラウスと長い巻きスカートのようなものなんですね女性の、男性は開襟シャツにやはりスカートのようなひざより長く巻くような、それが民族の制服というんでしょうかそういう服装で、ここでは女子が選択科目として 8 名ぐらい授業をしておりましてそのところの様子です。それを作るための染色から 17:01 布は配給 JICA のほうから来るということでそれを使っている染めております。この子は形を葉っぱを取ってきて近所の葉っぱを取ってきて型染めというのをしています。これは一番前の方が隊員でちょうど去年の 6 月にいらした方でまだ 1 年は経っていませんけれども大変地元の人たちになじんでおられて実際に民家にホームステイしているということですから現地語もかなりしゃべれるようになってきているということで英語と現地語と両方で生徒と会話をして大変楽しそうに授業をしておりました。でこの方は高校で 10 年ほど授業を日本でやっておりました。実際にこういうのを今先ほどの作業からこういう大きな布に染めてそして洋服にしているということですね。でこれは技術の方の先生のお部屋をお邪魔した時に黒板を使って、それからこんなものがありまして、これは技術の木工です。そういう日本から持って行った方ですね。それからもう一つ、ポール 6 世のカレッジということで、一月前に着いた隊員です、3 次隊でしょうか。食物の授業をしておりました。食生活は先ほど佐々井先生が申し上げたように大変厳しいんですね。こんなに体格がよく、お相撲さんのような方がたくさんいらっしゃる国でやはり食生活に課題があるということで食に力を入れているということです。これは時間割です。この現地調査から教師が十分な教育を受けて指導している現地の先生はですね、ですから派遣隊員による指導力というのが大変大きいということでこの方たちが実際に現地の先生たちを集めてワークショップもやってらして現地の教員の力量アップに貢献しているということもありました。それから教材が無いんですね。ですから現地に依拠して隊員が工夫していくということです。それから日本の経験を

活かしていただきたいということ。それから最後に先ほど写真がありましたけれどもレベルを下げた少し日本で使っているような高校でしたら中学校、中学だったら小学校。そういうようなものをお持ちになると大変役立つのではないかなというふうに思います。そして実践書のみみたいなものをそれぞれの教科の内容に応じたものがあると役立つのではないかと考えております。以上でございます。

先ほどの写真見させていただいて染物してたんですけど私も現地の伝統文化とかを教育に入れたらいいなとすごく思っているんですがあれは隊員の方がそういう風にされたのかそれとも最初からそういうことがカリキュラムの中にあっただのかということをお教えください。

カリキュラムというのは教科書しかないんですね。それでどうも教科書ではなくて隊員の方が工夫をしてああいうものを作っていったと布地は JICA のほうから巻物で来ているということでそれを染料があるのでそれで工夫をしてやって大変おもしろかったです。ほんとはよく工夫をされていて日本での経験を活かしているんだなということにはよく分かりました。

私、理数科教員としてウガンダの方に行くんですけどもさっきすごくエプロンシアターというので消化器の部分をそういうふうにやるというのがすごく理科でも使えるんじゃないかなと思って、この冊子を見てもすごく理科の授業をやる上でもヒントになるものがたくさんある気がするのでホームページなどでもっとさらに情報がいただけるのかなと思ひまして。

こちらの冊子の後ろの方にメールアドレスが書いてありまして必要な方にはこれを差し上げますけれどもこれからいろいろな情報を大学のホームページに公開しますし、共通の筑波大学でして下さっている方にもなるべく情報を載せるようにしております。今回載せようと思った大きな分量でちょっとだめでしたので、ちょっとセレクトして共通の方に載せたいと思いますので、またご質問があればこういうものが欲しいというものがありましたらこちらのメールアドレスの方にご連絡くだされば用意してお送りしたいと思います。

家政分野における派遣現職教員の活動支援教材および指導法の開発



活動概要



1. 派遣隊員報告の調査—隊員報告書より
2. 帰国隊員（家政）によるフォーラムの開催
3. 派遣隊員用携帯ハンドブックの作成
4. 家庭科教材開発
5. 現地視察（サモア）

ハンドブック



途上国教育協力ハンドブック(家政)—生活編

内容—生活の基礎となる家政分野

方針—家政分野の隊員のみでなく、生活に関わる指導を必要とするすべての隊員に共通する内容を盛り込む

身近な生活を通して、科学的な目を養う

簡単な技術の指導などに役立ててほしい

目次



家族と家庭生活

- 1 自分の成長をふり返ってみよう
- 2 私の生活時間
- 3 家庭の仕事と分担の工夫
- 4 私の将来の生活

食生活

- 1 健康と栄養
- 2 食事の果たす役割
- 3 調理器具の適切な管理
- 4 食品の選択・保存
- 5 食中毒の予防

衣生活

- 1 衣服のはたらき
- 2 衣服の保健衛生上の機能
- 3 衣服の洗濯と仕上げ
- 4 手縫いで作る
- 5 刺繍・組紐

衛生

- 1 手の洗い方
- 2 虫歯予防
- 3 消化・吸収のしくみ

環境

- 1 すまいの手入れ
- 2 家から出るゴミ
- 3 世界の人たちが考えていること

家族と家庭生活



家族と家庭生活		2 私の生活時間	
1. 1日24時間をどんなことに使っているのでしょうか。自分の24時間を次の表に時刻と活動内容を書いてみましょう。			
6時			21時
睡眠			睡眠
2. 友達の時間の使い方と比べてみましょう。			
<ul style="list-style-type: none"> ・誰にも共通にあるのはどんな活動ですか。 ・何もしていない時がありますか。 ・忙しい時はいつでしょうか。 ・家族の時間の使い方も調べてみましょう。 			
3. 次の活動（行動）について、日本の子どもと比べてみましょう。			
	あなたは		日本の平均
睡眠時間	()分	()分	()分
学校にいる時間	()分	(480)分	()分
家の手伝い時間	()分	(15)分	()分
TVをみている時間	()分	()分	()分
食事をしている時間	()分	()分	()分
塾で勉強する時間	()分	()分	()分
4. 誰もが1日は24時間です。はじめをつけて、自分で使い方を考えましょう。また、家族と一緒に何かをすることも大事ですね。			
資料			
日本ではNHKが生活時間調査をしています。参考にしてください。			
http://www.nhk.or.jp/bunken/research/life/life_20060210.pdf			
NHK 放送文化研究所： http://www.nhk.or.jp/bunken/index.html			

・1日の生活を、生活時間表を作って振り返る

・家族の生活についても考える

・生活時間の考え方を他の教科へ応用してほしい

食生活



食生活 1 健康と栄養 (1) 栄養素と食品		
<p>食事をする時にどのような考え方をすればいいだろうか</p> <ul style="list-style-type: none"> 健康であるためには栄養素をバランス良くとることが大事である ひとつの食品ですべての栄養素をまかなうことはできない 色々な食品を食べることでより自然な形で栄養がとれるが、似たような食品ばかり食べていては栄養が偏ってしまう 食品は6つのグループ(食品群)にわけられる 6つのグループの食品を組み合わせることでバランス良く栄養をとることができる 		
<p>栄養素のおもな働きと多く含む食品</p>		
<p>1群:タンパク質供給源</p>	<p>2群:カルシウム供給源</p>	<p>3群:カロチン供給源</p>
<p>魚、肉、卵、大豆・大豆製品</p>	<p>牛乳・乳製品、海藻、小魚</p>	<p>緑黄色野菜</p>
<p>4群:ビタミンC供給源</p>	<p>5群:糖質性エネルギー供給源</p>	<p>6群:脂肪性エネルギー供給源</p>
<p>淡色野菜、果物</p>	<p>穀類、芋類、砂糖</p>	<p>油脂類、脂肪の多い食品</p>

・各国で異なる食生活について、基本的な考え方を学ぶ

・人が必要とする栄養と食品との関係を、現地の食材を用いて考える

・簡単な調理の方法について知る→課外の実習などで現地の調理法を用いた実習を計画してほしい

衣生活



衣生活 4 手縫いでつくる (3) 袋をつくってみよう

手縫いで身近なものをいれる袋をつくってみましょう

1 入れるものにあわせて布の大きさをきめます 2 口になる端を三つ折りして縫います (なみぬいかまつりぬい)

2~3cm
1~1.5cm
入れるもの
入れるものの倍の長さ
2~3cm

3 中表に二つに折って、横を縫います (かえしぬい)

裏

4 表にひっくり返して持ち手をつけて完成です 持ち手は布を細く折って縫ったものや、紐を使うとよいでしょう。

裏

細長くつくるのであれば持ち手はひとつでもかまいません

・衣服の働きや着方について、各地の伝統的な衣服と気候との関係を調べる

・簡単な手縫いでできる作品を、課外や地域の学習として使ってほしい

・紐作りなど、購入できないものを作る工夫をする

衛生



衛生 1 手の洗い方

自然の中にはいろいろな菌が繁殖している。砂遊びや水遊びなどをして
いるうちに、指先の擦り傷から感染するという危険性や、手や指をなめ
たりして、腹痛の原因にもなる。

細菌の繁殖や手を介した二次汚染を予防するためには、外出から帰って
来た時だけでなく、料理をする時、食事の前、トイレの後には手をしっ
かりと洗いきちんと殺菌する。

十分な手洗いとは、石鹸をたっぷり泡立てて、15～20秒間くらい、指の
間から手首までしっかりすり合わせて汚れを落とす。流水で石鹸をきれ
いに洗い流し、必ず清潔なタオルで拭くこと。

手の洗い方



逆性石鹸液は、普通の石鹸と違って汚れを落とす力はないが、強い殺
菌力があるので、手指の殺菌剤としてよく使われる。

- 逆性石鹸を使用する際の注意** ・殺菌剤は、必ず薄めて使用する。
・殺菌剤は、絶対に飲まないよう、特に小さな子どもには注意する。(子
どもの手の届かないところに保管すること。)
・便や尿、飲料水の消毒には使用しない。
・まれに、人により手あれをおこすことがあるので、その場合には使
用を中止する。

・保健衛生の分野であるが、調理や食事の基本でもある内容を取り上げた

・食物の消化・吸収とのかかわりにおいて、歯の衛生や排泄について取り上げている

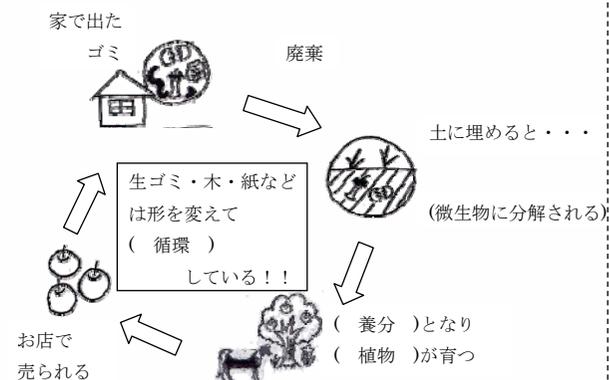
環境



2. ごみのゆくえを考えましょう

ごみは種類によって性質が異なります。下の図を見てどのような違いがあるか、確認しましょう。

植物や動物からできたもの



家庭で出るごみには

・**生物資源**(木や紙など植物や動物)からできたもの
 ・**鉱物資源**(石油、鉄、鉱石、ガラスなど地下から掘り出すもの)からできたものなどがある。
 注) 木や紙も生物資源であるため、時間はかかるが分解されて土にかえる。

石油など鉱物資源からできたもの



・家庭の生活環境として
 住まいの手入れ、家から
 出るごみを取り上げている

・身の回りのごみのゆくえを調べ、環境について学ぶ手がかりとする

・ごみの活用を考えて、
 地域に役立ててほしい
 (生ごみなど)



途上国教育協力

家庭科ハンドブック

2006年3月

日本女子大学
アジア家庭科教育協力プロジェクト



日本の家庭科教育を基本 とした詳しい内容の紹介

日本語版・英語版

(冊子・CD)

教材作成



パネルシアターの応用

・食教育の一環として、昼食の内容を図にし、裏に主な栄養を色分けする

・各国の典型的な料理を絵にし、その食材を紹介する

食教育に結びつける

パネルシアターによる教材の作り方と使い方

[食教育]

1. 材料 不織布などの毛羽立ちのある布 60×90cm
P ペーパー(画用紙を紙やすりで毛羽立たせたものでも可)、ポスターカラー
2. 作り方
 - ①1回の食事の内容を思い出させる。
 - ②その料理、飲料などの絵をPペーパーに描き、切り抜く。
 - ③それぞれに含まれている主な栄養素を裏に色分けする。
(赤は蛋白質、炭水化物は黄色、ビタミンは緑とする)
塗りにくい場合には、シールなどを貼って印とする。
 - ④色別に分けてはる。
3. 発表
 - ①出来上がった作品を一人ずつ発表する。
 - ②1回の食事として、栄養のバランスが取れているか、足りない色は何か、裏の色により確かめる。
4. 話し合い
 - ①どの栄養素が多いか、どれが不足しているかを話し合う。
 - ②健康的な食生活のためには、どのようにしたらよいか、提案をさせる。



①教材に使った昼食例



②料理の主な栄養素を考えてみる



教材作成



エプロンシアターの応用

・消化・吸収に関わる器官の図や紐をエプロンに貼る 応用

- ・体のしくみについて、他の教科や特別な活動でも利用してほしい
- ・胎児の月齢ごとの大きさを図にして示す

エプロンシアターによる教材の作り方と使い方

[からだのはたらき、食べ物の消化・吸収]

1. 材料

エプロン、不織布など毛羽立ちのある布 (30×50cm)、P ペーパー、ポスターカラー、綿ロープ (6メートル)、面ファスナー

2. 作り方

- ①エプロンの中央部分に、クリップなどで不織布を取り付ける。
- ②体の内部の器官(胃、肝臓、心臓、大腸、すい臓)を P ペーパーに作図し、不織布の上のせる。
- ③綿ロープを束ね、小腸としてポケット状の袋に収納する。
- ④食べ物が口から入って消化する道筋を追って確かめる。

[赤ちゃんの誕生]

1. 材料

エプロン、不織布など毛羽立ちのある布 (30×50cm)
P ペーパー、スキャナー、パソコン、プリンターなど

2. 作り方

- ①エプロンに不織布を取り付ける。
- ②P ペーパーに胎児の図をプリントして切り抜く。
- ③月齢別の胎児の成長の様子を確かめる。



エプロンに内臓模型をとりつけて説明



胎児の月齢による

※家庭科での「からだのはたらき、食べ物の消化・吸収」、「赤ちゃんの誕生」のほかにも理科の授業において「体のしくみ」を学ぶ際にも有効であり、多方面に活用可能な教材である。

青年海外協力隊派遣現職教員の 現況および家庭科教育支援に関する サモア現地調査

2007年4月3日

日本女子大学 家政学部

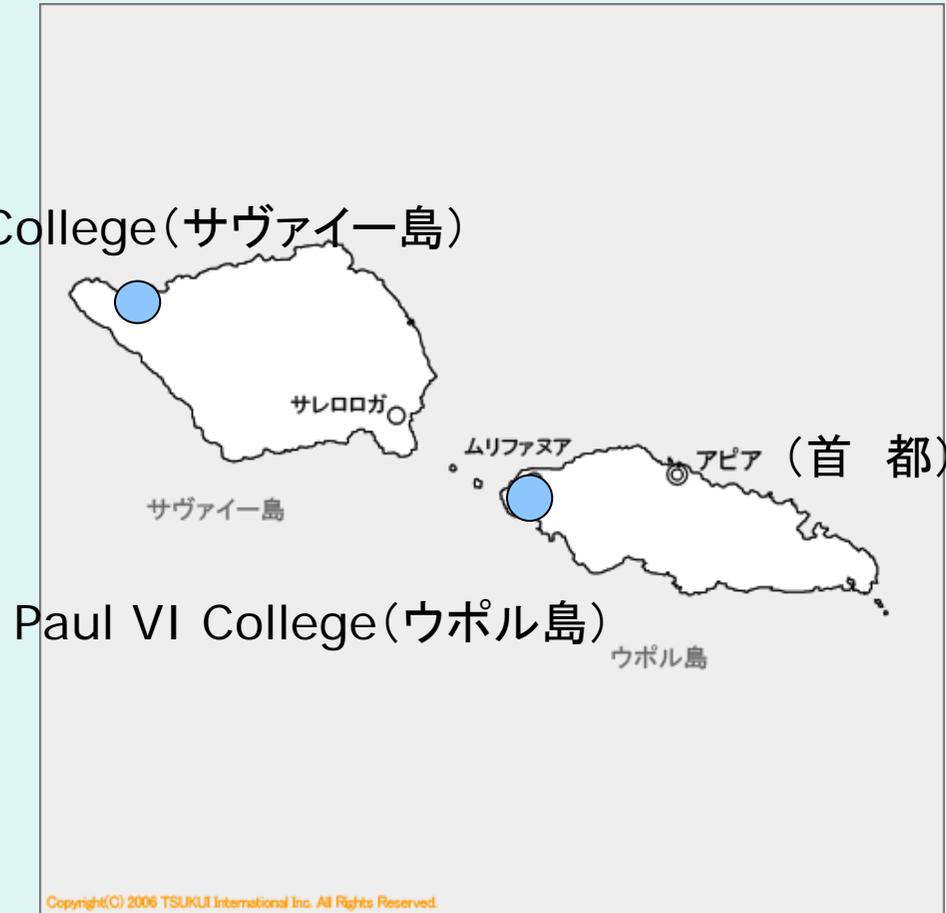
内野紀子 (児童学科)

飯田文子 (食物学科)

平田京子 (住居学科)

サモアでの訪問先

Itu-Asau College(サヴァイー島)

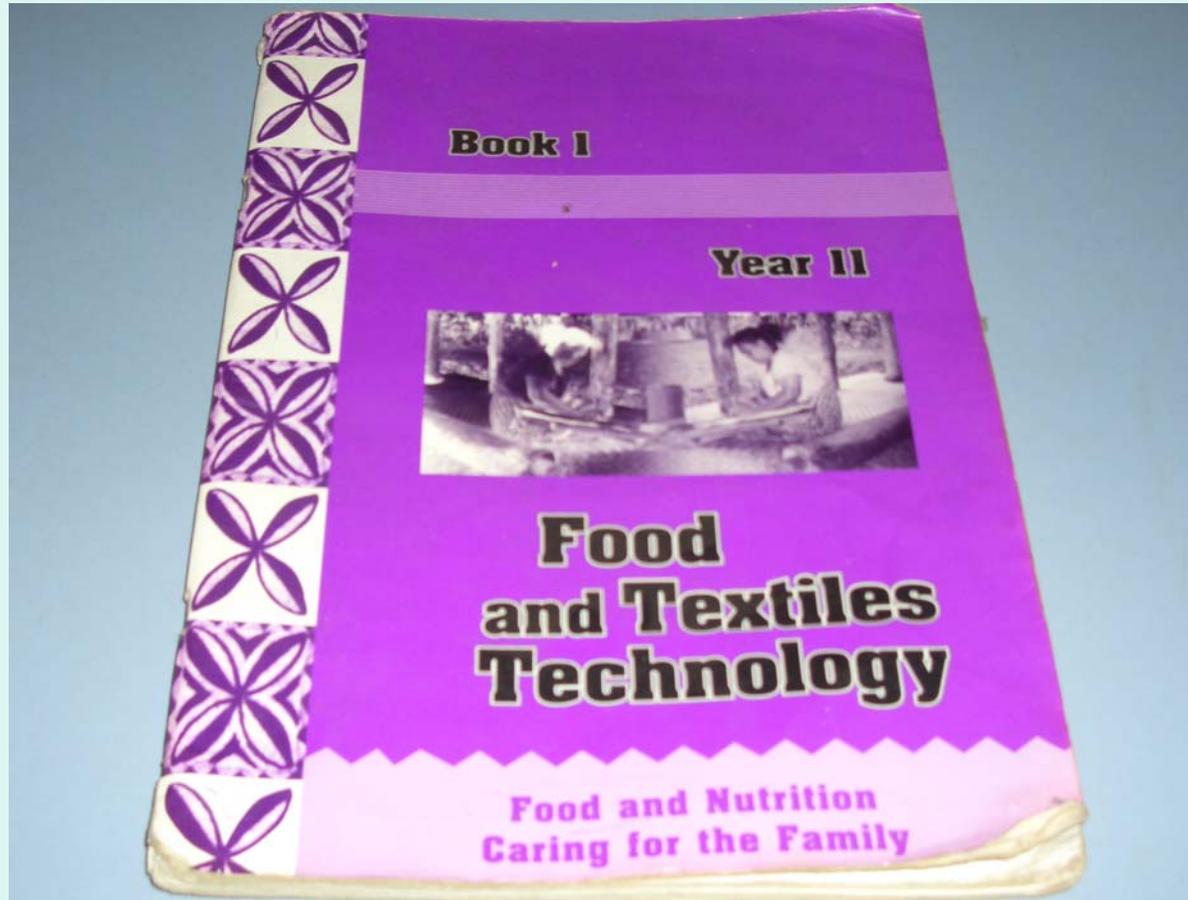


Paul VI College(ウポル島)

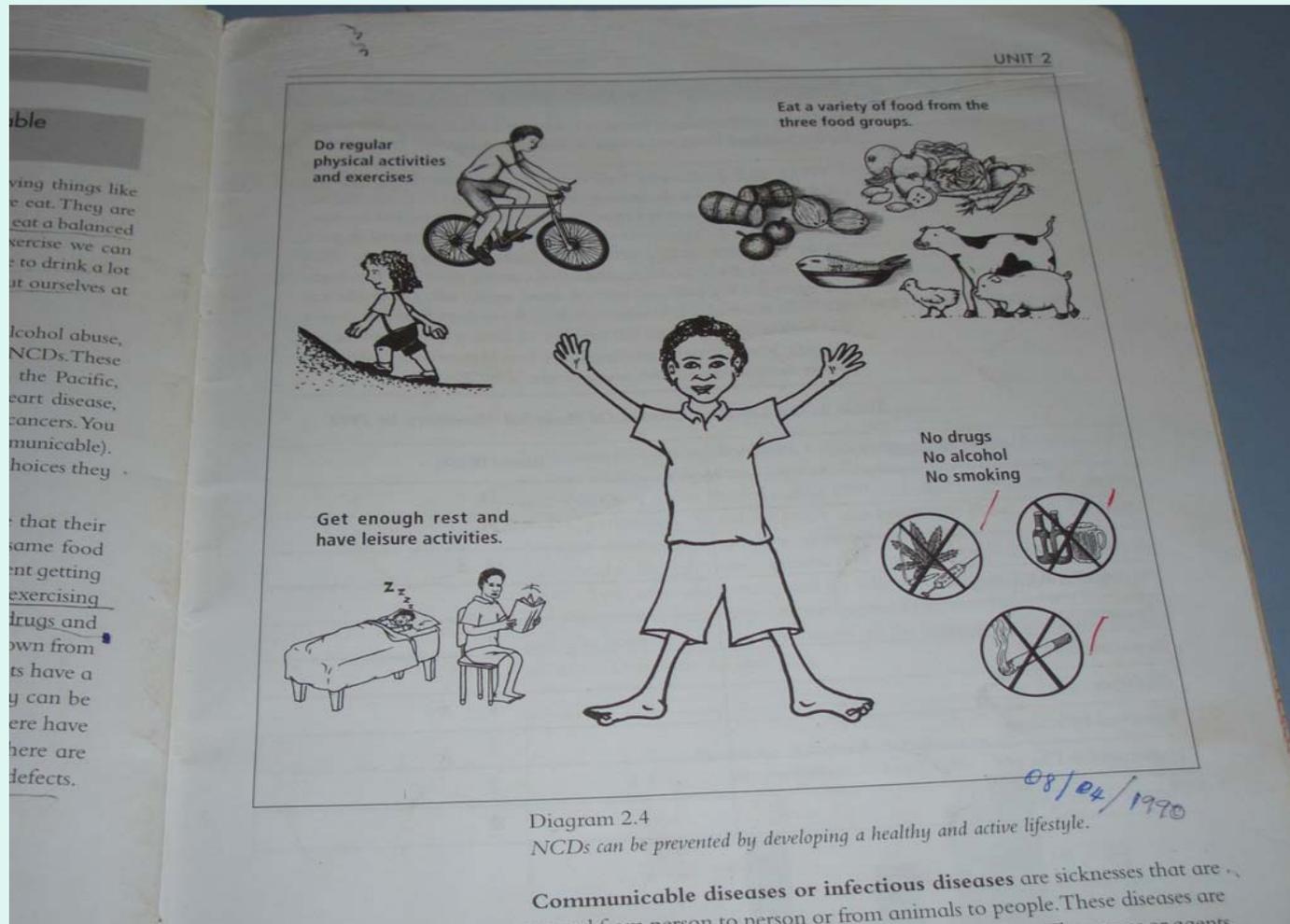
サモアにおける家庭科教育

- 初等教育(1~8年生)、中等教育(9~13年生)という学校教育の体系 ~JICAのサモアにおける基本設計概要表より
- 2000年から選択科目として家庭科が教育課程に組み込まれた
- 家庭科は中等教育で行われ、授業は家庭科室で行われている。教科書は共同のもの
- 授業は50分で、教室移動も含めた時間であるため実質はもっと少ない。週或いは年間の時間数は決まっていない
- 授業は黒板と、模造紙に書いた資料を活用することが多く、視聴覚的な教材はなく、その設備もないのが現状である。ワークシートなどを使うことも少ない

教科書(year 11)



教科書



Itu-Asau College





Collegeの家庭科実習教室の設備





授業での実習



授業での隊員指導の様子



授業での染色実習





Paul VI College



時間割

MR TAKEDA RYUTA - ASSISTANT TEACHER YEAR 11						
PERIOD	MONDAY	TUESDAY	WEDNESDAY	THURSDAY	FRIDAY	
1	11 AG SCI		12 AG SCI	Ag Sci Rm/Tools	9 AG SCI	
2					11 AG SCI	
3		8 AG SCI	8 P.E.	8 AG SCI	11 AG SCI	
30 mins	Interval	Interval	Interval	Interval	Interval	
15 mins	Reading	Reading	Reading	Reading	Reading	
4	7 AG SCI	7 AG SCI	11 AG SCI			
5	12 AG SCI	9 AG SCI	10 AG SCI		10 AG SCI	
6	12 AG SCI	9 AG SCI	10 AG SCI	12 AG SCI	Cleaning & Assembly	

TP - 18

MISS SOSEFINA AUKUSITINO - HOME ECONOMICS						
PERIOD	MONDAY	TUESDAY	WEDNESDAY	THURSDAY	FRIDAY	
1	11 H.EC	Sewing Rm Tasks	12 H.EC	Sewing Rm Tasks	9 H.EC	
2		H.Ec Rm Tasks	H.Ec Rm	Sewing Rm	11 H.EC	
3		8 H.EC		8 H.EC	11 H.EC	
30 mins	Interval	Interval	Interval	Interval	Interval	
15 mins	Reading	Reading	Reading	Reading	Reading	
4	7 H.EC	7 H.EC	11 H.EC	Sewing Rm Tasks		
5	12 H.EC	9 H.EC	10 H.EC		10 H.EC	
6	12 H.EC	9 H.EC	10 H.EC	12 H.EC	Cleaning & Assembly	

TP = 10

現地調査からのまとめ

- 教師が十分な教育を受けて指導しているわけではないため、派遣隊員による指導の力が大きい
- 教材がなく、紙も十分には使えないため、現地に応じて派遣隊員が指導内容を作っていくことが臨まれる
- 日本の経験を生かしていくこと
- 日本の簡単な実践書（料理や小物の作り方など）を活用して、レベルを日本の家庭科よりも下げている必要がある